

☆きらっと☆図書館講座⑦with キャリア支援センター☆

☆ 卒業生からのメッセージ 2016 ☆

2016年5月2日(月)12:20~12:55 図書館で開催しました。
今回お話いただいたのは、2013年度生活未来科生活福祉
コース卒業生の大野順子さんと金子美圭さんです。

現在、大野順子さんは生活支援員として「社会福祉法人せ
せらぎ会 指定日中活動多機能型施設 コッペ大淀」に、金子
美圭さんは介護福祉士として「社会福祉法人宝山寺福祉事業
団 特別養護老人ホーム 梅寿荘」で働いています。



①「どうして今の職場に就職しようと思ったか教えてください。いつ頃、就職は決まりましたか」

②「就職してから、もっと勉強しておけばよかった分野があれば教えてください」

③「学生時代にしておいたら良かったと思うことは何ですか」

④「今の自分が学生時代の自分にアドバイスするとしたら、何と言いますか」

⑤「仕事をする上で大切にしていることは何ですか」

⑥「実習生に対して心構えや行動などで気をつけてほしいことはありますか」

などの質問に、

先輩は、

①「6月の福祉フェアで就職を決めたいと思っていました。実習の際に、利用者さんが亡くなられたことから、自分の中で高齢者の最期に寄り添うことに難しさを感じていました。福祉フェアで高齢者施設だけでなく知的障がい者施設への就職という選択肢があることを知りました。また福祉フェアで出会った知的障がい者施設である今の施設の方とお話しをする中で、家から近いことや施設の方針、労働条件など自分のライフスタイルや考え方と合致することが多く、この施設で働きたいと思い就職することに決めました」

「子どもが通っていた保育園が宝山寺福祉事業団系列の保育園で、法人に対して好印象を持っていました。私は敢えて様々な施設で実習を体験し、全ての実習を終えてから就職試験を受けようと思っていました。第三段階の実習先である特別養護老人ホームでの実習を体験してから、自分には特別養護老人ホームでの就職が合っていると考え、以前から気になっていた宝山寺福祉事業団の特別養護老人ホームの就職試験を受けました。12月頃でした。既に募集は締め切られていましたが、問い合わせをして試験を受けました。就職したいと思う施設があれば、あきらめずチャレンジしてください」

②「障がいの細かな分類や種類、福祉関係の法律のことなどです。働き始めてから本当に障がいの細かな分類や種類など自分の知らないことが沢山あり、学びながら利用者さんを支援している毎日です」

「止血など、緊急対応の仕方など医学的な知識です」

③「いろいろなボランティアに行き、できるだけ多くの施設をみてほしいです。学生時代には様々な施設をみることができます。良い面は取り入れ、そうでない面は反面教師として学ぶことができる良い機会です」

「授業で学んだことは全て、今働いていることの基礎となっています。もっと真剣に授業を受けておけば良かったと思います」

④「自分に素直であってほしい」「人には色々な考えがあって皆考え方も違います。自分の考えを押し付けず、素直に人の意見も取り入れたいと思います」

⑤「利用者さんの声に耳を傾けること。利用者さん中心に考え、利用者さんがいかに心地よく過ごせるかということを大切にしています」「日々の業務を流れ作業ではなく、利用者さんに丁寧に寄り添って毎日の変化を大切に支援することを心がけています」

⑥「社会人としてのマナーです」「自分中心ではなく他者中心で考え、職員みんなで利用者さんを支援することです」

「自ら学ぶ姿勢があるのか、学ぼうという姿勢、積極性を出してほしいと思います」

など答えていました。

その他、「就職をする際やボランティアをする際、まだ何も技術的なことに自信を持ってないのですが、大丈夫でしょうか」という在学生の質問に、「利用者さんと会話することはできます。ボランティアの方と会話をする利用者さんはとても楽しみにしています。介護技術は現場に出て慣れることで身につけてきます。相手を思いやる気持ちがあれば大丈夫です」と温かい言葉をかけてくれていました。

福祉コースの学生など約40名の参加がありました。

在学生のアンケートでは、

◇実際の職場で働いている人の話を聞いてよかった。

◇現場の直接的な意見を聞き、本音な部分を聞き、とても役に立ちました。

◇利用者さんが中心であるということを改めて考えさせられました。

◇教えてもらうのを待つのではなく、自分から教えてもらいに行くことも大切だなと思いました。ありがとうございました。

◇とても勉強になりました。ボランティアに行ってみたいと思いました。

◇仕事を楽しいと思っておられるお二人は別の種別だが、やりがいのある施設で働いておられるのだなと思いました。

などの声がよせられました。

大野さん、金子さん、忙しい中、本当にありがとうございました。

働き始めてからもさらに成長した姿を直に拝見できて先生や私達職員もとても感動しました。また、遊びに来てくださいね。



きらっと☆図書館講座☆きらきら よい子の遊び講座 2016☆

2016年5月12日(木)12:25~12:55に図書館で開催しました。

プログラム

“野に咲く花のように:心で体で感じよう 歌の力”

朧月夜

茶摘

宵待草

星影のワルツ

北国の春

青い山脈

リンゴの唄

野に咲く花のように



シリーズ8回目となる今回は、“野に咲く花のように:心で体で感じよう 歌の力”と題し、音楽ボランティアをライフワークとして活躍中である本学非常勤講師の和田宏一先生と宮田眞理先生が、レクリエーションの場において音楽をどう生かせば良いかご指導くださいました。今回は、本学教授の安永龍子先生による「福祉施設などレクリエーションの場での音楽を使った体操」の実演や指導もありました。

講座は、文部省唱歌である「朧月夜」と「茶摘」の紹介で始まり、その後、叙情歌「宵待草」や千昌夫のヒットソングである歌謡曲「星影のワルツ」の紹介がありました。先生方のボランティアの経験から、特に千昌夫の歌は、どこの高齢者施設でも



好まれ利用者の方が一緒に歌って下さることも多い曲であることを教えていただきました。講座中盤では、安永先生に「福祉施設などレクリエーションの場での音楽を使った体操」の例として「座ったままでできる体操」と「2人1組でできる体操」を教えていただきました。まず、「線路は続くよどこまでも」のリズムに合わせて、足をしっかり挙げて足の筋肉を鍛える「座ったままでできる体操」を会場の皆さんと一緒にしました。つぎに、「ソーラン節」のリズムに合わせて、手ぬぐいやタオルを2人で引っ張り合い腕や背中などの筋肉を鍛える「2人

1組でできる体操」を会場の皆さんと一緒にしました。

どちらの体操も、利用者さんの体調をみてテンポをゆっくりするなど、レクリエーションを行う対象者である利用者の体調や介護状態に合わせたアレンジが必要であることを教えていただきました。またより効果的に楽しいトレーニングをするための体の使い方や利用者の方が車椅子を使用されている場合の注意点など様々なアドバイスをいただきました。

「声を出す、歌う、体を動かす」との安永先生の呼びかけに合わせ、歌い、体を動かしているうちに、会場でも「筋肉が伸びてる～」などの声上がり、参加者からは自然と笑顔があふれました。

図書館講座ということで、高齢者施設でのレクリエーションの場で参考になる雑誌や選曲に参考になっている本の紹介もありました。予定では、その後「北国の春」「青い山脈」「りんごの唄」を歌っていただくはずでしたが、時間の関係で「高校三年生」と並んで高齢者施設で人気のある「青い山脈」を歌っていただきました。

最後に、今回の講座タイトルになっているドラマ「裸の大将」の主題歌「野に咲く花のように」を歌っていただきました。この歌は何度もドラマ化や映画化され幅広い年齢層に好まれている曲だという紹介もありました。

また先生方のボランティア活動の経験から、「施設で利用者さんに好まれる曲」としては、唱歌・歌謡曲のほか、最近の歌でもAKB48の「365日の紙飛行機」など「NHK連続テレビ小説」の主題歌など施設で歌うと好まれることなども教えていただきました。生活未来科生活福祉コース、留学生など約25名の参加がありました。

アンケートでは、

- ・今回のレクはもうすぐ始める実習で使わせて頂きます。ありがとうございます
- ・コミュニケーションなどに必要な歌のことなどを聞いて良かったです。また今回のような講座を開いてほしいです。
- ・素敵な歌声とピアノ演奏でした！ありがとうございました。などの声がよせられました。

2016 大学祭 図書館イベントのご報告

「えほんのひろば」 「としょかん de カフェ」

10月22日(土)12:00～16:00、10月23日(日)10:00～15:00に 図書館で卒業生による絵本の読み聞かせや、ぬり絵を楽しめる「えほんのひろば」を開催しました。また 昨年度に引き続き、図書館でゆったりコーヒーを飲むことのできる「としょかん de カフェ」も同時開催しました。「えほん」「ぬりえ」を楽しむ家族連れらや「カフェ」を楽しむ方で会場はにぎわいました。2日間で約30組の家族連れや卒業生、一般の方など延べ200名(紙芝居:「請戸小学校物語」含む)ほどの参加がありました。



参加者からは、次のような声がよせられました。

- ・のんびりと落ち着いた中でコーヒーをいただけて、リラックスできる。おいしかった。
- ・コーヒーが飲めてゆっくりくつろげる。子どもも楽しめる。
- ・コーヒーをゆっくり味わいながらお話を聞けて良かった。
- ・たたみの場所が良い。しかけ絵本が面白い。
- ・いろんな味のコーヒーを飲めて良かった。
- ・一休みできる場があるのは、ありがたいです。
- ・静かでゆったりとした空間ですが、静かすぎなくて過ごしやすかったです。咳をするのもはばかりれる所もあるのですが、ちょうど良い感じでした。

ご来場いただきました皆さま、どうもありがとうございました。

「東日本大震災パネル展」 「紙芝居：請戸小学校物語」

○東日本大震災パネル展(福島県浪江町の現状)

10月22日(土)12:00～16:00 10月23日(日)10:00～15:00

○「紙芝居：請戸小学校物語」

10月22日(土)、10月23日(日)1回目:12:30～ 2回目 14:30～

被災地ボランティアを続けている本学事務局長倉田清の発案で、「震災を忘れず、継続的に関心を持って復興を考えるきっかけにしてほしい」との願いから「NPO ナルク 京都ことの会」の協力のもと、「東日本大震災パネル展」と「紙芝居：請戸小学校物語」の上演を図書館で行いました。2日間で述べ約70名の参加者がありました。

東日本大震災パネル展(福島県浪江町の現状)では、「NPO ナルク 京都ことの会」メンバーの岡部正則さんが、福島県浪江町で2016年4月に撮影した写真のパネル約30枚を展示しました。

東日本大震災から5年6か月を経過しましたが、地震や津波で壊された民家、汚染土壌が山積みされている様子など、全町避難が続く福島県浪江町の現状をお伝えしました。



「紙芝居：請戸小学校物語」は、津波による壊滅的な被害があった福島県浪江町にある請戸小学校で、教員・生徒が全員無事に非難し助かったという事実をもとに制作された紙芝居です。

紙芝居を制作した NPO 法人『団塊のノーブレス・オブリージュ』では、「事実にもとづくこの物語には、いざというときの適切な指示、その指示に従った素早い行動、日頃からの住民間の信頼関係など、災害時における大切な事柄が含まれている」と紹介されています。

参加者からは、次のような声がよせられました。

- ・あの震災で全員が助かった小学校があったというお話を聞いて驚きました。語り継いでいくことが大変素晴らしいことだと思いました。
- ・災害などが起こった時は、パニックになり、なかなか冷静な判断をしにくいと思いますが、「請戸小学校物語」のエピソードを頭にいれておけば、状況に応じた判断をするのに役立つと思いました。
- ・展示、紙芝居はとても大切な内容で忘れてはならない教訓ですが、ともすると忘れてしまいがちです。沢山の方にふれていただき、自分の事として考えていきたいと思いました。また被災地で今も苦勞されている方々の事も忘れてはならないとあらためて思いました。
- ・東日本大震災の時の様子を生々しく感じる事ができた。
- ・紙芝居の内容がテレビで見た以上の話として入ってきた。
- ・時間がたつと忘れられてしまう記憶を呼び起こす良い機会だった。危機管理について、常に考える機会を持つことが大事ですね。
- ・先日、小学校の実習の際に地震が起こり、対応に困りました。紙芝居を聞いて、いざという時の判断や適切な指示、素早い行動がいかに大切かを痛感しました。ありがとうございました。
- ・いつ起こるか分からない災害を身近に感じた。
- ・復興の現状やまたいざというときの判断の大切さ、またその基本となる人間関係を築いて信頼を深める事の大事さを実感致しました。生命に直結することなので、何度も見たり聞いたりしながら出来ることから改善していきたいと思います。関係者一同、この催しが、東日本大震災の被害と復興の現状について理解を深めていただく機会になることを願っております。



☆・・きらっと☆図書館講座⑦with キャリア支援センター・・☆☆ 卒業生からのメッセージ 2016 Part2 ☆

2016年11月24日(木)12:20～12:50に 図書館で開催しました。

今回お話しいただいたのは、村田知史(2006年度幼児教育科卒業生、2007年度専攻科修了生)さんです。村田さんは、卒業後9年間保育園で働いた後、その経験を活かし、2016年4月からは「リハビリ発達支援ルーム UT キッズ田原本」で働いています。

- ①「どんな学生時代を過ごされましたか」
- ②「学生時代にしておいて良かったと思うことは何ですか」
- ③「保育園での勤務の際、アルバイト学生を受け入れたと伺いました。アルバイトの方に対して心構えや行動などで気をつけてほしいことはありますか」
- ④「ご自分が学生時代に、実習に行った際は、最初から施設の方々に積極的に質問をすることはできましたか」
- ⑤「苦手な教科(ピアノ)はどのように取り組んでおられましたか」

- ⑥「実習での記録簿を書くことが苦手です。どのように取り組まれましたか」
⑦「感覚統合とはどのようなものですか。教えてください」
⑧「今は保育士として働いておられますが、専攻科で介護福祉士を取得されたことは今どのように活かされていると思われませんか」

先輩は、

①「幼児教育科の2年間は、とても楽しく過ごしていました。この学校が大好きで、もう1年学生でいたいという軽い気持ちで専攻科に進学しました。しかし、専攻科の学びは、利用者さん一人ひとりにどう深く向き合って接していくかを考える学びの連続で、自分の中で、もっと学ばなくてはと気持ちを切り替えて、保育園でのアルバイトを始めいろいろな経験をし、また学校での勉強も真面目に取り組みました」

②「自分は入学するまで、ピアノを弾いた経験がなく苦労したのですが、実際に保育園で勤めると、弾き語りなどをする場面もあるので、学生時代に取り組んでおいて良かったです。その他、学生時代に得たとても大切なものは、「友だち」の存在です。今でも同じ方向を向く仲間として、非常に大切な存在です」

③「あいさつをすること、自ら学ぶ姿勢、自分で考えて動く、行動することなどです。待ちの姿勢で、言われないと行動できない方が多いように思います。積極性が必要だと思います」

④「自分は幼少時から「野球」に取り組んでおり、上下関係については厳しい世界にいたため「あいさつ」に関しては、自然と身についていたと思います。また自分は次男坊なので、常に周りを見て行動するという傾向があり、「この人なら教えてくれるだろう」という人に分からないことを聞いていたように思います。まずは、勇気を出して行動してみてください」

⑤「入学後、学校とは別にピアノの個人レッスンを受けていました。また学校が好きだったこともあり、友だちと話をしながらですが「ピアノ練習室」で毎日19:00くらいまで残ってピアノの練習をしました。卒業までにブルグミュラーの半ばまで弾けるようになりました。1年半くらい個人レッスンを続けていました」

⑥「書くことは得意では無かったですが、社会人になっても書くことを求められます。書き方は書いていくうちに身につくように思います。学生時代は図書館で記録簿の書き方の本を借りたり、友だちに相談したりなどしていました。慣れただと思います」

⑦「このことについて話を始めると30分以上かかると思います(笑)。感覚から入る複数の刺激を脳と結び付けて感覚を統合させることです。感覚統合療法とは、アメリカの作業療法士のエアーズという人が考案した理論で、発達障害のある子へのリハビリテーション、療育実践として主に医療現場(作業療法)で発展してきたものです。感覚統合理論では、(1)楽しい活動(2)ちょっと頑張れば成功できるもの(3)成功体験を大切にしています。現在、自分が勤務している「リハビリ発達支援ルーム UT キッズ田原本」でも、この感覚統合療法を中心とした活動(1回:活動45分+振り返り15分)の中で一人ひとりのお子さんにアプローチを行っています。スタッフには、作業療法士、言語聴覚士、保育士などがおり、自分は保育士として関わっています。「UT キッズ田原本」では、一人ひとりのお子さんのアンバランスな感覚やそれによって引き起こされる着せきの無さなどを克服するために、そのような感覚や運動を調整する力を自主的に楽しんで「体を動かす」→「成功!」→「楽しくなってまたする!」の繰り返しを通じて高めていくことに取り組んでいます。今日は、自分が保育士をしている時に会った作業療法士である高畑脩平氏の著書、『乳幼児期の感覚統合遊び：保育士と作業療法士のコラボレーション』を紹介します。この本には、感覚統合の発達が分かりやすく解説されており、乳幼児の感覚統合あそびが写真を交えて紹介されています。理論に基づいてどんな遊びを組み立てたらいいのか、その遊びにはどのような目的や効果があるのかが分かりやすく説明されているととてもお薦めの資料です」

⑧「先にも述べましたが、介護福祉士を取得するための専攻科での学びは、利用者さんに一人ひとりに関わって、どう深く向き合い、いかにその人を知るかの学びの連続でした。そのことは、今の職場でも同じであり、現在に活かされていると思



います」

また「知的障がい者施設にボランティアに行った際、知的障がい者に関わる仕事に興味を持つようになりました。障がい者に関わるアルバイトをしたいと思っていますが、どうしたら良いですか」との在学生の質問に、「自分の施設ではアルバイトは募集していませんが、近隣の施設でも募集はしていると思います。是非、行動してみてください」と励ましの言葉をかけてくれていました。講座に参加していた先生からもその在学生に対して、「他の卒業生の施設を紹介することができますよ」とのアドバイスがありました。

地域こども学科、生活福祉コースの学生など約7名の参加がありました。

在学生のアンケートでは、

- 学校で勉強する知識は大事だと思った。
- 感覚統合のあそびに興味が出ました。(紹介のあった)本を読もうと思いました。とても話しやすかったです。ありがとうございました。
- ピアノのことなど話していただけたので良かったです。

などの声がよせられました。

村田知史さん、本当にありがとうございました。
働いて10年目、今も学生時代と変わらず日々目標を持ち、一人ひとりの利用者さんに真摯に向き合う姿、さらに成長した姿を直に拝見できて、先生や私達職員もとても感動しました。
また、遊びに来てくださいね。



“としょかん de カフェ : Xmas パーション”

12月20日(火)～22日(木)9:00～16:30

大学祭で好評だった“としょかん de カフェ”をクリスマス時期にも開催しました。

試験やレポートの合間に、温かい飲み物を飲んで、ほっと一息。

図書館でゆったりとした時を過ごす学生さんで賑わいました。

3日間とも盛況で、約80杯の利用がありました。

参加者からは、次のような声がよせられました。

- ゆっくりとくつろげました。
- ホットしました。
- クリスマス気分を味わえました
- またしてほしいです。

